

(様式2)新規評価シート

建設部 都市・まちづくり課

事業名	街路事業		路河川名等	(都)環状北線 <(主)伊那インター線>				
事業毎の通番	2	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	山寺～中央(やまでら～ちゅうおう)			
事業目的	都市計画道路環状北線は、伊那インターと伊那市街地を結ぶ東西軸として整備を期待されているが、天竜川より東側は、整備が進んでいない状況である。また、天竜川の東側では、工業団地や宅地の開発、南北軸となる伊那バイパスの整備が進み、交通需要が増加してきている。さらに、伊那市街地では、交通集中による慢性的な渋滞が発生しており、渋滞緩和のため、長野県および伊那市では、環状道路の整備を進めており、当該事業区間の整備により、伊那市内環状道路が完成するため、事業の早期着手が望まれている。そこで、当事業を実施し、円滑な都市内交通の確保および良好な市街地環境の形成を図りたい。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造(潤いのあるまち・むらづくり)		事業実施の根拠法令等	都市計画法				
関連する事業、計画等	伊那都市計画区域マスタープラン、伊那市都市計画マスタープラン、南信地域広域道路ネットワーク計画							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益対象(不特定多数):計画交通量 10,900台/日							
着手年度	平成30年度	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	平成38年度	費用対効果	2.7(全線供用時)	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=610.0m、W=7.0(16.0)m			3,400,000	1,870,000	340,000	1,071,000	119,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	道路新設に伴う都市内交通の円滑化 歩道整備による歩行者の安全確保						
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い道路(現在の東西軸である国道361号の代替道路として活用できる) 災害時主要拠点(病院、市役所)へのアクセス機能強化 都市構造に対応した道路ネットワークである内環状線が完成することで、良好な市街地形成が促進される						
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量：10,900台/日 ○交通結節点アクセス：伊那インターチェンジの1次アクセス ○地域の骨格・環状の形成：伊那市内環状道路の一部					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：伊那都市計画区域マスタープラン、伊那市都市計画マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定：完成後、県緊急輸送道路に指定予定 ○無電柱化の推進：DID地区内、県緊急輸送道路に指定予定のため、第8期無電柱化推進計画での位置づけを要望					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：2.7(全線供用時) ○事業期間：9年(H30～H38) ○工法等の比較検討：アクセス道路の配置について比較検討					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：(H24:14件、H25:13件、H26:14件、H27～28データなし) ○渋滞対策・混雑度：代替路線の一部で混雑度が1.0 ○現況の歩道幅員：代替路線の一部で歩道なし ○車の通行の確保(車のすれちがいやすさ)：代替路線で天竜川渡河部において、W=4m					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：5地区で住民説明会を実施(周辺地権者以外も自由参加) ○地域の取り組み：地区で対策委員会を設置 ○地域の合意形成：H29.5～6の住民説明会で予備設計段階の計画に合意 ○住民との協働：地区の対策委員会が住民アンケートを実施し、居住環境等について独自に検討している					評価	A
	所管課意見	当路線は、伊那市の都市構造を支援する内環状線の一部であり、当該区間の整備により、内環状線の整備が完了することから事業の必要性、重要性、効率性が高く事業の実施が必要である。				採択状況	総合評価	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

位置図

事業概要説明図表

- 内環状構想 (Blue line)
- 外環状構想 (Green line)
- 事業中または調査中 (Black dashed line)
- 構想道路区間 (Circle with dot)

平面図

横断面(現国道153号～竜東線)

2.50	0.50	3.50	3.00	3.50	0.50	2.50
歩道	路肩	車道	右折車線	車道	路肩	歩道

⑤国道153号の渋滞状況

代替路線の通行状況

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	伊那市内環状道路について、当該路線を除いた区間の整備が実施されており、内環状線の完成供用が望まれていた。当該区間は、天竜川を渡り、伊那市役所と伊那中央病院(災害拠点病院)、伊那インターを結ぶ重要な路線であり、伊那市の良好な都市構造を支援する観点からも早期整備が求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間より伊那インター側には伊那中央病院があり、病院へのアクセス道路として地域からの要望が強い。国道153号及び国道361号の渋滞は慢性化しており、代替路線である当路線の整備が求められている。
③事業説明等の経緯	H25から地区役員を通して地元住民へ事業の浸透を図っている。H28.4～6には、関係する4地区の住民へ説明を行い、地域からの意見・要望を確認している。H29.5～6に住民説明会を5地区で行い、予備設計段階の計画について概ね了解を得た。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	伊那市内環状道路整備事業(環状南線(伊那市事業)および竜東線(長野県事業)) 伊那バイパス(道路事業) 上ノ原工業団地 伊那都市計画区域マスタープラン、伊那市都市計画マスタープラン
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	緊急輸送路であり、天竜川を渡河する道路であることから、無電柱化を実施し、良好な都市景観の形成に努める。
⑥地域活性化への影響と配慮	内環状線が整備され、天竜川東側の都市活動(産業や商業)の活性化が期待される。また、良好な都市構造が形成され、快適で魅力ある市街地の形成が期待される。
⑦その他	内環状線の整備が完成し、コンパクトなまちと主要な拠点を結ぶネットワークが形成される。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 137° 58' 21" 03

東経:E 35° 50' 53" 12